様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１２６０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ０１１８６

研究課題名（和文）タイ北部、ミエン(ヤオ)の歌謡と歌謡語および歌謡の儀礼への応用に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Mien (Yao) Songs, Song-Language and Application of Songs to Rituals in Northern Thailand.

研究代表者
吉野　晃（Yoshino, Akira）

東京学芸大学・教育学部・名誉教授

研究者番号：６０２３０７８６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：(1)歌謡の研究：①ミエンの歌の歌詞を多数収集し、そのうち２曲を翻訳した。②歌詞の固定化の度合いや使用語彙によって各種の歌を位置づけた。③2冊のミエン語辞典から歌謡語(文語)語彙を828語抽出し、歌詞から歌謡語語彙と推定される語彙を121語抽出した。③歌が、渡海神話を伝える有力なメディアであることを示した。
(2)新しい宗教現象の研究：①従来の儀礼と新しい儀礼とを比較し、降神の有無や性、祭神などの点で異なる特徴を持っており、新しい儀礼が従来の儀礼がカバーしていない隙間を埋める形で補足的に展開されてきたことを明らかにした。②新しい儀礼を執行する女性シャマンたちの組織の特徴を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　ミエンの歌に関するミエン語を踏まえた研究を行い、歌謡語語彙を明らかにしたことにより、ミエンの歌研究を大きく進めることができた。これによって、この地域の他の民族の歌文化との比較研究も行えることになる。
　また、ミエンの社会に起きている新たな宗教現象を調査して、ミエンの宗教とジェンダーに関する変化の一側面を明らかにしてきた。これはミエン研究に新しい視野を開くものである。従来の民俗知識が再編されて新たな宗教現象が現れた訳であるが、その成立の機序を明らかにすることで、社会変動に対応した宗教の適応変化の一例を提供することになり、宗教人類学の宗教活性化の研究に資するものでもある。

研究成果の概要（英文）：(1)The study of Mien songs: ①I collected a lot of lyrics of Mien songs and translated two pieces of those. ②It was clarified that Mien songs show a wide variation in the degree of fixing written lyrics and the languages used in lyrics. ③828 song-language (literal language) words are extracted from two Mien-English dictionaries and 121 estimated song-language words from the lyrics collected. ④I pointed out that Mien songs are important media that transmitted the "Crossing the Sea" myth that reflexes Mien identity.
(2)The study of the new religious phenomenon: ①The comparison between the conventional rituals and the new rituals indicates that they are different on several points such as gender, spirit possession, deities, and so on. The new rituals have been developed by filling up a niche that the conventional rituals did not cover. ②I clarified the characteristic of the organization of female shamans who conduct new rituals.

研究分野：社会人類学

キーワード：ミエン　歌　歌謡語　女性シャマン　廟　定詞歌　即興歌

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

2000 年代に入ってから、タイのミエン社会に新しい宗教現象が生じた。従来女性が儀礼を執行することはなかったところへ、女性がシャマンとして降神して儀礼を執行する新しい現象が出来したのである。新しい儀礼では、女性シャマンは読経ではなく、歌を唱って儀礼を執行しており、歌が女性の儀礼執行への参与の鍵となっていた。そのため、女性が執行する儀礼の意味などを理解するためには、ミエンの歌について知ることが必要であった。しかし、ミエンの歌については、豊かな歌謡文化がありながら、公刊されたデータの蓄積が極めて少なかった。ミエンの漢字歌詞を漢文として解読する研究は中国では多いが、歌詞のミエン口語語彙・歌謡語(歌謡にのみ用いる語彙群)語彙は実際の発音を踏まえて研究しなければならない。なぜなら、歌詞の漢字の読みは、日本語のように音読み(ミエン語式音読み)、訓読み(発音はミエン口語・歌謡語)、宛字(ミエン口語・歌謡語語彙に音宛字したもの)が交じり、甚だ複雑であるからである。そうしたミエン口語・歌謡語の発音を踏まえた研究は極めて少ない状態であった。

２．研究の目的

本研究の目的は二つあった。(1)ミエンの歌の研究を進めるために歌詞を収集・分析して歌謡語の全体を把握する。併せて歌の様々な規則を抽出する。(2)新たな宗教現象が成り立っている機序を把握して儀礼の意味を解明し、且つ(1)で解明された歌謡語の知見を駆使して、ミエンの新しい宗教現象における託宣・唱え言を解読して儀礼の内容を明らかにする。以上の二つのことを目的とした。

３．研究の方法

(1)歌の研究　ミエンの歌の歌詞を多数収集し、その発音を記録すると共に意味を聞き取り、歌詞の解釈を行って、歌謡語彙を抽出した。漢字で書かれた歌詞の場合は、歌詞を写真に撮って文字起こしし、そのテクストに発音(IPA：国際音標文字)と意味を付けた。発音と意味の確定のため、一曲について数回のインタビューが必要であった。テクストの無い即興歌の場合は、即興の歌を録音して発音を IPA で書き取り、記録した発音に基づいて歌い手にインタビューを行って発音記述を修正し、歌詞を確定した上で意味の聞き取りを行った。更に、相当する漢字があればそれを当てた。この作業も一曲についてインタビューが数回必要であった。この 2 つの収集法を用いて確定した歌詞の中の歌謡語語彙を抽出した。この過程でも、インフォーマントにインタビューして歌謡語彙の判定を行った。研究開始時点でミエン語-英語辞典が 2 冊刊行されていたので、その 2 冊の辞典から歌謡語語彙を抽出し、可能な限り漢字表記を付加した。更に上記の方法で歌詞から抽出した歌謡語語彙を増補し、対応する漢字を同定して、歌謡語彙のデータを拡大した。併せて歌詞における歌謡語の使い方、口語と歌謡語と漢語の混用の様態、歌の中に挿入される漢語の読み方、歌詞の修辞法などについてもデータを収集し、歌の諸規則を抽出した。

(2)新宗教現象の研究　2000 年代に入って生じたミエンの新しい宗教現象について、女性シャマンが儀礼を行っている廟で、儀礼を撮影録音した。あわせて女性シャマン等にインタビューを行い、儀礼の構成と意味、シャマンの成巫過程について聞き取りを行い、特に女性シャマンたちの師弟関係と組織原理について分析を行った。後に女性シャマン集団は分裂したが、その経緯について組織原理を踏まえた分析も行った。また、女性シャマンが司祭する新しい儀礼群と、男性祭司が司祭する従来の儀礼群との比較を行い、新しい宗教現象の展開の特徴を把握した。

従来は、ミエンの儀礼において女性が儀礼を執行することはなかったが、新しい宗教現象では、トランスに入った女性シャマンが神の言葉として歌を唱いシャマン祭司として儀礼を執行している。この儀礼の中の歌の分析に(1)の歌の研究の成果を応用して、儀礼執行時の歌と託宣の歌の部分を聞き取り、歌詞を確定して意味の解読を行うことを予定していた。新型コロナ禍により果たせなかったが、これが「(2)新しい宗教現象の研究」の一つの目的であった。

４．研究成果

(1)歌の研究

①パヤオ県チエンカム郡の村で歴史故事歌「唐王歌」と、ナーン県ムアン郡　の村で悲嘆歌「寄朋友的歌」を収集して、漢字歌詞に IPA で発音を示し、所持者から聞き取った意味を勘案して歌詞のテクストの意味を確定し、翻訳した。この他にもいくつかの歌の歌詞を採集し、即興歌も若干録音し歌詞の同定を進めていた。

②「唐王歌」［吉野 2019a］のあらすじは以下の通りである。かつては唐王という王が世を平穏に治めていたが、唐王の死後、六王の世に蒙古王が攻めてきて、国が混乱した。それから逃れるためにミエンたちは諸国を移動した。後述する渡海神話「飄遙過海」の挿話も入っている。その末に避難先の国でも圧政に悩んでいるミエンたちに、唐王と六王が再生してミエンたちが故国へ戻り平穏な暮しを迎えられるであろうという神仙の予言が伝えられる。このようなミエンの祖先たちの苦難の歴史と千年王国的な内容を持つ歴史故事歌となっている。

③「寄朋友的歌」［吉野 2020a］のあらすじは以下の通りである。1960 年代から 70 年代にタイ・ラオス・ベトナムで起きた戦乱・内乱から逃れるためにミエンが移住した。その中で筆者の若いときの様子、特に大病したことが描かれる。その後の経済的困難や、希望を込めた空想、創世神話、そして再び内乱を避けた移住の経緯を述べ、その後の父親の大病と死、その後の家庭的困難といった話である。大部分は著者本人の個人史を述べ、難情を訴える悲嘆歌となっている。

④この二つの歴史故事歌と悲嘆歌に加え、以前の科研費プロジェクトの成果として物語故事歌［吉野 2016］、恋愛歌［吉野 2017］、そしてもう一つの歴史的故事歌［吉野 2018a］の歌詞の発音を IPA 表記し、翻訳した。これら 5 曲の歌を含めたミエンの歌は、その内容や、即興歌か定詞歌(歌詞が固定されている歌)か、流布するかその場限りかなどの規準により多様である。例えば恋愛歌は原則的に即興歌であるが、物語故事歌・歴史故事歌はテクスト化された歌詞があり、筆写によって流布される。こうしたミエンの歌の多様性について、まず、歌詞のテクスト化の度合い(固定された歌詞←→即興の歌詞)によって、各々の歌を位置づけた［吉野 2019b］。更に、より多角的に、定詞歌←→即興歌と、漢語歌詞←→漢語ミエン語混雑歌詞の両極の間に分布し、それぞれの歌の種類によって使われる語彙に多様性があることを明らかにした。定詞歌の極に位置する「甲子歌」などは漢文として読めるが、即興性が高くなるにつれて歌詞にミエン口語や歌謡語の語彙が多く入り、漢文として読むのが難しくなることを示した(図 1)［吉野 2019d, 吉野 2021b］。

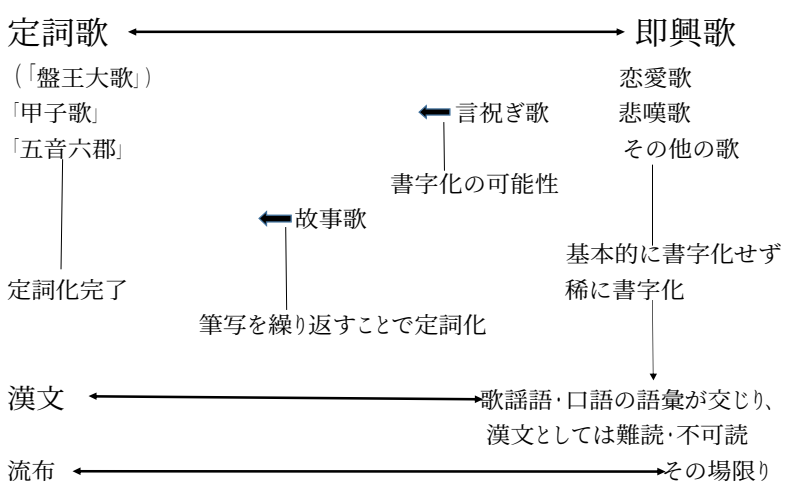

図1　各種歌の位置づけ

⑤Purnell, H.C.(compl.&ed.)2012 *An Iu-Mienh-English Dictionary*(Silkworm Books)と Panh, S. 2002 *Mienh-English Dictionary* (Trafford Publishing)の 2 冊のミエン語辞典から歌謡語(文語)語彙を 828 語抽出した［吉野 2020b］。更にこの 2 冊の辞典に歌謡語語彙として記述されていない或いは全く載っていないが、歌詞に用いられ、口語とは異なっていて歌謡語語彙と推定される語彙を 121 語抽出した［吉野 2021d］。

⑥ミエンの祖先たちが飢饉を逃れて移動し、その途上で海を渡るときに神に救難されて広東にたどり着いたという、ミエンの民族アイデンティティを反映した「飄遙過海」神話は単一のテクストではなく、儀礼経文経文や儀礼文書、書き付け、神像などの多様なメディアによって伝承され、その結果としてミエンの歴史資源となっており、歌もこの神話を伝える有力なメディアになっていることを明らかにした［吉野 2019c，吉野 2019e，吉野 2021c］

(2)新しい宗教現象の研究

①2018 年度と 2019 年度には、ミエンの新たな宗教現象について、陰暦七月と陰暦正月の儀礼の調査をチエンラーイ県ムアン郡のミエン村落HCP村にある〈銀山廟堂〉で行い、儀礼を録画した。一方、女性シャマンのライフヒストリーに関する聞き書きを行った。

②従来の道教・法教的儀礼と女性がシャマンとして儀礼執行する新しい形の儀礼(表1〈銀山廟堂〉の儀礼)とを比較すると、儀礼執行者(男性／女性)、降神(なし／あり)、儀礼執行者の類型(祭司／シャマン、シャマン祭司)、唱え言(経文読誦／歌)、儀礼執行に用いる言語(儀礼語／歌謡語)、祭神(道教・法教の神々／道教・法教以外の神々)において悉く異なる特徴を持っている(表1)。この

表1 道教･法教系儀礼と〈銀山廟堂〉の儀礼

	道教･法教系儀礼	HCPの〈銀山廟堂〉における儀礼
儀礼執行者	男性祭司	女性シャマン(圧倒的多数) 男性シャマン(少数) 男性祭司(降神して司祭)
降神	しない	する
儀礼執行者の類型	Priest(祭司)	Shaman(シャマン) Shaman-priest(シャマン祭司)
唱え言	経文の讀誦(テクストあり) 漢字知識が必要	歌(テクストなし) 漢字知識は必要なし
言語	儀礼語tsiə waː(「広東語」) 漢語雲南方言k^hɛʔ waː ミエン口語miən waː	歌謡語(文語)dzuŋ ɲei waː ミエン口語miən waː
祭神	〈大堂畫〉の神々(道教･法教) 〈玉帝〉 道教･法教経文に登場する神々 祖先 師父 盤王･唐王(盤王祭祀経文に登場、像なし)	老君 郎老 伏羲姉妹 七姐 太白先生 盤王･唐王(像あり) 口承伝承と道教法教経文以外のテクストにおける神々

ことを踏まえると、女性たちの祭祀活動は従来の儀礼と対立せず、従来の儀礼がカバーしていない隙間を埋める形で補足的に展開されてきたことが明らかになった［吉野 2021a］。

③この女性シャマン集団の組織面を分析すると、チエンラーイ県HCP村の廟に集い儀礼を行う女性シャマンたちは、指導的な男性祭司および指導的女性シャマンあるいは古参の女性シャマンとの師弟関係を複数積み重ねることにより緩く組織されていた。しかし、男性祭司の離脱に伴いこの女性シャマン集団は分裂した。このことから、女性シャマンたちの組織が師弟関係という二者間関係の重複のみに依拠しており、全体を集団として統合する機序がなかったために容易に分裂したことが判明した［吉野2018b，吉野2020c］。

(3) 2020 年に入って新型コロナウィルスの感染が拡大し、タイとベトナムへの渡航ができなくなり、

歌の新たなデータ収集も、既存のデータ分析に関するインフォーマントへの確認も不可能となった。そのため、歌の研究の作業が十分に果たせず、その結果として女性シャマンの儀礼の意味の解読が進まなかった。このままでは研究期間のうちに目的を成就するのが不可能と判断し、新たな研究計画を立て、最終年度前年度応募して採択された。このため、新たな科研費研究課題(基盤研究 C)が 2021 年度に始まり、本研究課題は 2020 年度を以て終了した。

〈参照文献〉

吉野　晃 2016「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語―『歌二娘古』発音と注釈―」廣田律子(編)『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』岡山：大学教育出版、pp.55-71.

吉野　晃 2017「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(2)―『後生娘子歌』発音と注釈―」『東京学芸大学紀要　人文社会科学系Ⅱ』68，pp.47-58.

吉野　晃 2018a「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(3)―『過山榜圖』発音と注釈―」『東京学芸大学紀要　人文社会科学系Ⅱ』 69，pp.73-84.

吉野　晃 2018b「女性シャマンたちの活動と師弟関係―タイ北部、ミエン(ヤオ)社会における新たな宗教現象に関する中間報告 5―」日本文化人類学会第 52 回研究大会発表.

吉野　晃 2019a「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(4)―『唐王歌』発音と注釈―」『東京学芸大学紀要　人文社会科学系Ⅱ』70，pp.105-129.

吉野　晃 2019b「タイにおけるミエンの歌謡テクストと歌謡語」山田敦士(編著)『雲南の書承文化―記録・保存・継承―』勉誠出版、pp.148-162.

吉野　晃 2019c「タイ北部におけるミエンの歴史資源化」長谷川清・河合洋尚(編著)『資源化される「歴史」―中国南部諸民族の分析から―』風響社、pp.145-169.

吉野　晃 2019d「タイ北部ミエンの歌謡語語彙の特徴」日本文化人類学会第 53 回研究大会発表.

吉野　晃 2019e「飄遙過海を伝えるメディア」国際シンポジウム　儀礼と神話(神奈川大学主催・ヤオ族文化研究所共催).

吉野　晃 2020a「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(5)―『寄朋友的歌』発音と注釈―」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ』71，pp.33-58.

吉野　晃 2020b「ミエンの歌謡語(文語)語彙について：*An Iu-Mienh-English Dictionary* と *Mienh-English Dictionary* に収録された歌謡語語彙(初稿)」『瑶族文化研究所通訊』7, pp.126-158.

吉野　晃 2020c「〈廟〉における女性シャマンの組織と儀礼の変化―タイ北部、ミエン（ヤオ）社会における新たな宗教現象に関する中間報告―」『年報タイ研究』20, pp.55-70.

吉野　晃 2021a「既存儀禮の隙間を埋める―タイ北部のミエン（ヤオ）における新しい宗教現象の展開と傳承的基盤―『東方宗教』133, pp.1-23.

吉野　晃 2021b「即興歌と定詞歌の間に―タイ北部、ミエン歌謡の歌詞の多様性―」日本文化人類学会第 55 回研究大会発表.

吉野　晃 2021c「飄遙過海神話を伝えるメディア」『瑶族文化研究所通訊』8, pp.16-26.

吉野　晃 2021d「ミエン歌謡における歌謡語語彙―歌謡語語彙と推定される語彙の抽出―」『瑶族文化研究所通訊』8, 188-192.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 吉野　晃	４．巻 20号
２．論文標題 〈廟〉における女性シャマンの組織と儀礼の変化―タイ北部、ミエン（ヤオ）社会における新たな宗教現象に関する中間報告―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 年報　タイ研究	６．最初と最後の頁 55－70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 吉野　晃	４．巻 133号
２．論文標題 既存儀禮の隙間を埋める―タイ北部のミエン（ヤオ）における新しい宗教現象の展開と傳承的基盤―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 東方宗教	６．最初と最後の頁 1－23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 吉野　晃	４．巻 8号
２．論文標題 飄遙過海神話を伝えるメディア	５．発行年 2021年
３．雑誌名 瑶族文化研究所　通訊	６．最初と最後の頁 16-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 吉野　晃	４．巻 8号
２．論文標題 ミエン歌謡における歌謡語語彙―歌謡語語彙と推定される語彙の抽出―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 瑶族文化研究所　通訊	６．最初と最後の頁 188－192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 吉野　晃	4．巻 71
2．論文標題 タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語（5）―「寄朋友的歌」発音と注釈―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 東京学芸大学紀要　人文社会科学系Ⅱ	6．最初と最後の頁 33-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 吉野　晃	4．巻 7号
2．論文標題 ミエンの歌謡語(文語)語彙について：An Iu-Mienh-English DictionaryとMienh-English Dictionaryに収録された歌謡語語彙(初稿)	5．発行年 2020年
3．雑誌名 瑶族文化研究所通訊	6．最初と最後の頁 126-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 吉野　晃	4．巻 70
2．論文標題 タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語（4）―「唐王歌」発音と注釈 ―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ	6．最初と最後の頁 106-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 吉野　晃
2．発表標題 〈廟〉における儀礼組織の分裂―タイ北部、ミエン(ヤオ)社会における新たな宗教現象に関する中間報告6―
3．学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4．発表年 2020年

１．発表者名 吉野　晃
２．発表標題 即興歌と定詞歌の間に―タイ北部、ミエン歌謡の歌詞の多様性―
３．学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 吉野　晃
２．発表標題 タイ北部ミエンの歌謡語語彙の特徴
３．学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉野　晃
２．発表標題 タイにおけるミエンの新しい宗教現象とその展開
３．学会等名 講演会「ヤオ族研究のパイオニア」(ヤオ族文化研究所・東京学芸大学教育学部吉野晃研究室主催)
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉野　晃
２．発表標題 飄遙過海を伝えるメディア
３．学会等名 国際シンポジウム　儀礼と神話(神奈川大学主催・ヤオ族文化研究所共催)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉野　晃
２．発表標題 女性シャマンたちの活動と師弟関係―タイ北部、ミエン(ヤオ)社会における新たな宗教現象に関する中間報告5―
３．学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

１．著者名 山田敦士(編著) 黒澤直道 山田勅之 清水享 伊藤悟 堀江未央 立石謙次 奈良雅史 稲村務 吉野晃 川野明正 西川和孝 相原佳之 飯島明子 野本敬	４．発行年 2019年
２．出版社 勉誠社	５．総ページ数 215
３．書名 雲南の書承文化―記録・保存・継承―	

１．著者名 長谷川清(編著) 河合洋尚(編著) 塚田誠之 松岡正子 稲村務 韓敏 吉野晃 野本敬 兼重努 曽士才 樫永真佐夫 高山陽子 孫潔	４．発行年 2019年
２．出版社 風響社	５．総ページ数 464
３．書名 資源化される「歴史」―中国南部諸民族の分析から―	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関